

1 施策の位置付け

総合計画 政策の柱	市民の快適な暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	良好な水と緑の環境を創出する	取組の 基本方向	「良好な水と緑の環境を創出する」ため、河川の治水対策や水辺に親しめる環境づくりを進めるための「快適な河川環境の創出」、自然に対する意識を高めるための「自然環境保全の推進」、限りある緑を守り、育てるための「緑の保全・育成」に、重点的に取り組めます。	政策目標 (基本施策目標)	市民が身近に自然と親しめる良好な水と緑の環境が創出され、自然との共生が深まっています。
--------------	------------------	----------------	----------------	-------------	---	------------------	---

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

①施策名	緑の保全・育成						達成率 (%)							
	施策指標(単位)													
②施策目標	市民・事業者の主体的な活動により、都市の緑化や樹林地の保全が図られています。													
③施策を 取巻く環境	国・県等の 動向	良好な緑とオープンスペースの保全・創出や、緑のネットワーク化促進の取組み等について「社会資本整備総合交付金」を活用したり、都市緑地法運用指針の改正がされるなど、緑の創出・保全にかかる取組みの推進が強化された。また、栃木県は平成20年度に「元気な森づくり推進市町村交付金事業」を創設し、各市町における森や緑の保全活動や、森づくり活動等の事業を助成している。					④施策の 達成状況							
	外部意見 その他	財政支出において、近年の社会情勢や平成23年3月に発生した東日本大震災の影響から、緑の保全・育成のような中長期的な取組みが求められる事業より、震災復旧関係の緊急性の高い事業が優先されている。												
		・平成21年3月の市議会にて、貴重な水と緑の環境を次の世代に引き継ぐためには、今ある里山・樹林地を地域住民と行政が協力し合いながら、保全に取り組むべきとの指摘があった。 ・平成22年9月の市議会にて、公共施設への緑地帯や生物多様性の場等を設置することや中心市街地の広場における積極的な緑化を推進することについて指摘があった。 ・平成23年3月に「第2次 宇都宮市緑の基本計画策定懇談会」において、緑の基本計画を着実に推進していくためには、市民・事業者・行政が一丸となって取り組むことが重要であり、緑のまちづくりに関連する取組みの進捗状況や効果を点検・評価する仕組みづくりや、緑のまちづくりの理念や緑地保全、緑化の義務付け等の市独自の制度等を盛り込んだ条例を制定することにより、さらに効果的な推進が望めるとの提言があった。												
	市民の 施策満足度	34.1%	市民の 施策重要度	76.5%	達成度 (単年度目標)	達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	●	達成していない (70%未満)	説明	ボランティアを中心とする緑地保全活動について、活動に参加しやすい雰囲気づくりのための助言や活動日・活動内容の周知など、より積極的な支援に取組む必要がある。	⑦現状分析と課題の抽出 (③⑤⑥を踏まえた分析)	成果が見られる点	緑地の適正な保全や、緑化の推進に関する総合的な計画として「第2次宇都宮市緑の基本計画」を策定し、平成34年までの本市における緑の保全・育成の方向性や「緑の目標水準」を設定するとともに、都市緑地である鶴田沼緑地については、段階的な公有地化に取組み、保全区域を拡大することができた。 また、社会情勢や意識調査から、市民は、緑の保全や育成について高い関心を有しており、「財団法人グリーントラストうつのみや」や「宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会」等と協力することで、市民やボランティアの積極的な参加を得ながら、緑に関するイベントや講座、保全活動等を展開することができた。
⑤市民意識調査結果			⑥施策の評価	必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ)	●	増加している	横ばい	●	減少している	説明	市民意識調査の結果、当施策が、今後も力を入れていくことが求められる領域に位置づけられていること、また、施策の重要度が高い水準にあるなかで、市民満足度については前年度より減少していることから、必要性は増加している。		改善の必要な点	大半が民有地である市内の里山・樹林地について、全てを公有地化により保全・育成することは財政的な負担が大きいことから、本市の特色や土地所有者の意向等を把握しながら、公有地化以外の手法も選択できるよう、保全の仕組みを検討する必要がある。 また、中心市街地における緑の確保が求められていることから、公共施設における緑化の促進や、市民一人一人が主体となった民有地の緑化について、より効果的な取組みとなるよう、実施手法等を検討する必要がある。
				適切性 (適切な事務事業の選択、実施)	●	十分である	●	不十分な事業が一部ある	●	不十分な事業が複数ある	説明		市民の参加を募り、力を合わせて取り組んだ結果、事務事業の大半で目標値を達成することができた。目標に届かなかった一部の事務事業については、次年度以降の目標達成を目指して、実施手法等を点検するなど、より効果的・効率的な事業展開に取り組む必要がある。	
				有効性 (政策目標への効果)	●	十分である	●	やや不十分である	●	不十分である	説明		各事務事業とも、市民の緑に対する意識の啓発・向上に成果をあげており、特に市民が主体となって展開している事務事業は、施策目標の達成に非常に有効な手法である。	

3 今後の取組方針

⑧取組の 考え方	総論	緑には、ヒートアイランド現象の緩和や、火災延焼や土砂流出の防止、市街地における一時避難場所など、「癒し」や「憩い」だけでなく、多種多様な役割・機能が求められている。今後も、本市の緑とオープンスペースの総合的な計画である「第2次宇都宮市緑の基本計画」に基づき、都市緑地の段階的な公有地化や、里山・樹林地における積極的な緑地保全活動、都市部における緑化の推進など、水と緑のネットワークの形成や「緑の目標水準」の達成に向けた施策・事業を展開し、一人ひとりが緑をつなぎ、住みつけたいまちの実現を目指す。 また、市民が生活の身近な部分から緑を感じることができるといった事業やイベント等を継続することで、市民の緑に対する意識の啓発・向上や民有地での緑化の促進を図る。	⑨政策評価 会議意見	同左
	重点事業	緑地の保全については、都市緑地である鶴田沼緑地の都市計画事業認可を取得し、国庫補助を活用しながら、段階的な公有地化に取り組む。戸祭山緑地については、生物多様性保全の視点も含めた施設整備や管理運営体制の方向性を検討する。 緑化の推進については、本市の土地利用の状況や市民ニーズ等を踏まえながら、主に中心市街地における緑の確保につながる仕組みや事業を検討・実施していく。 また、「財団法人グリーントラストうつのみや」について、団体の自主性のさらなる向上を目指し、会員数の増加や資金力の確保等に関する適切な助言・支援を行う。		
	見直し事業	都市緑化の推進における「出生・住宅新築記念贈呈事業」については、これまでに実施した他市との事業状況比較の調査結果を活用しつつ、今後も利用者に対するアンケート調査等により、さらに効果的な実施手法等を検証することで、市民の緑に対する意識の啓発・向上を図り、民有地緑化の推進につなげていく。		

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名		対象者	開始年度	活動指標等	H21	H22	H21	H22	重点度 (A~C) ※施策目標 に対する 寄与度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
						目標値	目標値	事業費	事業費			
						実績値	実績値	(千円)	(千円)			
1	都市緑地の保全		市民	H元	用地取得面積 (ha) (累計)	21.4	25.0	0	733,400	A	継続	戸祭山緑地は貴重種の保護を含めた必要最小限の施設整備及び供用開始後の管理運営体制について方向性の検討を進める。また、鶴田沼緑地は事業認可取得に向け計画的な用地取得について検討を進める。今後も、水と緑のネットワークの形成に重要な事業であることから継続していく。
	担当課	緑のまちづくり課				21.4	25.0					
2	都市緑化の推進		市民	S60	出生・住宅新築記念樹贈呈事業樹木本数 (本)	4,400	4,400	10,386	11,926	A	継続	活動指標については概ね目標を達成している。出生・住宅新築記念樹贈呈本数については横ばい傾向にあるが、中核市等の類似都市(74市)と比較し検証した結果、引換率も高く民有地の緑化に対し大変有効な事業である。今後は市民への緑化意識の向上、また、民有地の緑化を推進するため、緑化誘導策など新たな都市緑化の施策や事業、仕組みづくりを検討する必要がある。
	担当課	緑のまちづくり課				4,020	3,797					
3	里山・樹林地の保全		市民	H16	長岡樹林地ワーキンググループ活動回数 (回)	80	80	0	0	A	継続	里山・樹林地の適切な保全を図るため、「とちぎの元気な森づくり県民税」による助成措置や風致地区制度等の活用のほか、法的な担保に基づく保全の仕組みについて検討をすすめる。また、モデル地区である長岡樹林地について、「財団法人グリーントラストうつのみや」と積極的に連携することで継続して安定した保全活動の展開を図る。
	担当課	緑のまちづくり課				57	99					
4	緑の相談所の運営		市民・団体・事業者	S56	緑化講習会年間受講者数 (人)	1,800	1,800	2,867	2,831	B	継続	市民の緑化活動の支援及び人材育成の拠点として、市民の緑に関する多種多様なニーズに対応するため、講習内容や回数、また、緑地の保全や自然環境に関する情報発信、地域と連携した自然観察など、相談所機能の充実を図るとともに、同敷地(平出工業団地公園)内にある都市緑化植物園も含め、更なる利用促進を図る。
	担当課	緑のまちづくり課				1,818	1,842					
5	(財)グリーントラストうつのみや運動促進費補助金		(財)グリーントラストうつのみや	H3	グリーントラスト会員数(人)	1,800	1,800	5,706	5,706	B	継続	今後とも、市民や事業者が主体となって緑の保全・育成が図られるよう、団体が有する課題や、活動の目的であるグリーントラスト運動の促進に対し、行政として適切な助言・支援を行うことで、身近な緑の保全や自然の大切さについて市民の理解と関心を深めるとともに、緑地保全活動等への参加者拡大に取り組む。
	担当課	緑のまちづくり課				1,703	1,634					
6	宇都宮市 花と緑のまちづくり推進協議会補助金		協議会	H13	普及啓発を目的とした研修会参加者数 (人)	100	100	4,500	4,500	B	継続	市民主体の都市緑化活動を推進するため、市民が事業に参加しやすい環境を整えるとともに、会員が主体となり協議会活動のPRを積極的に行うことにより、会員数や研修会参加者数の増加を図り、市民の緑化意識の高揚を促進する。
	担当課	緑のまちづくり課				75	125					
7	宇都宮市 花と緑のフェスティバルうつのみや交付金		協議会	H14	来場者数 (人)	5,500	5,500	3,000	2,996	C	継続	市民主体の都市緑化及び緑地保全を進めていくには、緑に関心を持つ市民を増やすことが必要である。より魅力的な事業内容や開催場所等を検討することによって、当イベントの来場者数の拡大や参加者の人的ネットワークの形成を図り、市民の緑に対する意識の向上に努め、都市緑化を推進していく。
	担当課	緑のまちづくり課				6,000	4,500					
8	とちぎの元気な森づくり市町村交付金事業		市民・事業者・行政	H20	森林整備・管理箇所 (ha) (累計)	3.71	3.71	347	185	C	継続	今後とも計画の円滑な進捗を図りながら、都市に残る里山林の貴重な自然や豊かな環境・景観の保全に取り組んでいく。また、土地所有者からの理解や管理活動の役割を担う団体等の協力を求めながら、新たな都市緑地や民有地の緑に対して当事業の活用を引き続き検討する。
	担当課	緑のまちづくり課				3.71	3.71					
9	緑の基本計画の改定		市民・事業者・行政	H20	市民ニーズ把握回数(アンケート・懇談会・パブリックコメント等)	4	16	8,401	7,980	C	終了	市内各地域の特色を踏まえた個性と魅力ある緑のまちづくりを進めるため、地域別意見交換会を行い、各地域の市民の意見を伺いながら、地域別の緑のまちづくりの将来像、取組方針を示し、スケジュール通り「第2次宇都宮市緑の基本計画」の策定を行うことができた。
	担当課	緑のまちづくり課				4	12					
施策事業費合計								35,207	769,524			